



妙高市立妙高高原北小学校 第1号

# 学校だより

令和2年4月13日

それでも、みんなが行きたくなる学校、

明日も来たくなる学校

校長 岡田 和則

オリンピックを復活させたクーベルタン男爵は、「スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する」ことをその目的に掲げました。120年に及ぶ近代オリンピックのその歴史の中で、これまで中止・延期されたのはわずか3回です。そしてそれは、いずれも第一次、第二次世界大戦中の出来事です。オリンピックが「平和の祭典」とも呼ばれる所以がそこにあります。日本国中が、そして世界のアスリートが待ち望んでいた2020東京オリンピックまでもが延期されてしまう、正に今、世界は見えない敵であるウイルスとの「戦争」状態にあるとも言えるでしょう。

大都市圏を中心に緊急事態宣言が発令され、学校の休業が続く地域もありますが、妙高高原北小学校では、6日から学校を再開しました。毎朝夕の検温と体調の自己管理、マスク着用と手洗いの励行、「3密」を避ける環境づくりを行いながら、現在のところ初日から1名の欠席者もなく、令和2年度をスタートすることができています。本当に嬉しい限りです。新しい担任とも本日で1週間過ごし、それぞれが新しい学年での自分の目標に向かい、学級のめあてを共有しながら学校生活を進めています。遊びが制限されたり、活動が自粛されたりと様々な制約はありますが、子供たちは本当に元気です。子供の歓声が響いてこそこの学校だどつくづく感じているところです。

さて、このような状況の中だからこそということで、昨年に引き続き、

## 「みんなが行きたくなる学校 明日も来たくなる学校」

を学校づくりの目指す姿として全教職員で誓い合いました。

- ・楽しい行事がある学校
- ・力が付く学校
- ・勉強が分かりやすい先生のいる学校
- ・いじめのない学校
- ・笑顔が溢れる学校
- ・挨拶が元気な学校
- ・心が休まる学校
- ・何かいいことが起こる学校
- ・勉強が楽しい、運動が楽しい学校
- ・花が溢れる学校
- ・歌声が溢れる学校
- ・子供の作品が溢れる学校
- ・・・

様々な子、保護者、地域の皆様、職員がいます。そして、人それぞれが思う学校の理想像は千差万別です。しかし、めざす頂上をはっきりしていれば、イメージが共有されていさえすれば、登るルートは違っても、やがて同じ頂上へとたどり着くことができるでしょう。「みんな」とは、子供たちはもちろんですが、保護者、地域の皆様、そして教職員全てです。

状況は刻々と変化しています。明日にでも急遽違った対応をお願いすることになるかもしれませんが、それでも、「みんなが行きたくなる学校 明日も来たくなる学校」に変わりはありません。子供たちの命を守る対策を十分に行いながら、次ページの職員一同、誠心誠意務めてまいりますので、令和2年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

## 10 名の新入生のみんな、待ってたよ!



一家庭一名、在校生は6年生のみという限られた出席者ではありましたが、令和2年度の入学式を無事実施することができました。前日まで雪が舞うような日々でしたが、当日は太陽が顔をのぞかせ、穏やかな日和のもと、10名の1年生を迎えることができました。

入学式では、校長は3つのことを大切にしよう1年生にお願いしました。

### ①元気に学校へ来ること「げんきに」

元気が一番。元気があれば何でもできる。朝ご飯をしっかりと食べ、大きな声で「いってきます」の挨拶をし、学校へ出かけましょう。

### ②友達と仲良くすること「なかよく」

仲間がいれば、うれしいことは2倍に、悲しいことは半分に。けんかやいじめをしないで、学級や全校の友達と仲良くしましょう。

### ③命を大切にすること「いのちをたいせつに」

命はたった一つです。失ってしまったら二度と戻っては来ません。皆さんの命は、家族の大切な大切な宝物です。安全に気を付け、自分の命が守れるよう生活してください。

一つ一つゆっくり話しかけるたびに、1年生は「はい」と返事をしてくれます。話がよく聞けている証拠です。言葉にして返してくれたことで、温かなコミュニケーションが成り立ちました。新入生を迎え入れて令和2年度の児童数は72名、元気に、仲良く、命を大切にしながら頑張ります!



<お願い>命を大切にする取組として、地区で子供の姿を見かけましたら、「気を付けて遊ぶんだよ!」など、ひと声かけていただければ幸いです。また、PTAが危険個所に看板設置を行いました。破損等見かけた折には、学校までお知らせください。